

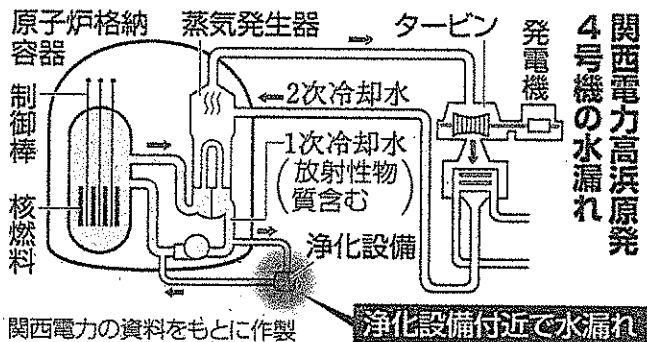
高浜原発水漏れ 再稼働に影響も

4号機 起動試験を延期

関西電力は21日、今月中の再稼働をめざす高浜原発4号機（福井県高浜町）で、この日始める予定だった「起動試験」を延期した。20日に原子炉補助建屋で見つかった放射性物質を含む水漏れの原因を調べるため、26日にも再稼働するとみられていたが、遅れる可能性が出てきた。

▼33面 地元不安の声
起動試験は21日からの予定で、原子炉の核燃料の核分裂を抑える制御棒が正常に動くかどうかなどを確かめた後、制御棒を引き抜き核分裂反応を起こして再稼働する計画だった。

しかし、その前段階の試験をしていた20日午後3時42分ごろ、原子炉補助建屋にある1次冷却水の浄化設備などに水を通したところ、水漏れを知らせる警報が鳴った。浄化設備近くで水たまりが見つかり、原子力規制委員会と福井県に連絡した。漏れた水は約34リットルで放射能は国に報告する基準より低かったという。関電は21日も水漏れの場所や



関西電力の資料をもとに作製

原因を調べたが、「特定に至らなかった」（広報部）。
原子力規制委員会は21日、現地の保安検査官が高浜4号機の水漏れ現場を調べた。水漏れが止まっていることを確認したという。
規制委は水漏れの原因などについて関電から報告を受けた後、改めて対応を検討する方針。関電は水漏れについて、発見してから約1時間後に規制委と県に連絡したが、公表は約6時間後だった。広報部は「現場の状況を正確に把握する必要があった」と説明する。